

=====
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

=====
AA 研共同利用・共同研究課題「死の人類学再考：変容する現実の人類学的手法による探究」2022年度第4回（通算第8回）研究会

日時：2022年12月17日（土）本郷サテライト開催

13:30～18:00

成果論集のための概要発表会（全員）

要旨

成果論集への執筆予定者がそれぞれA4で1枚ほどの要旨を準備して発表した。今度の草稿執筆にむけての準備のため、各発表について質疑応答を行い、論点の明確化に努めた。

それぞれのタイトル（仮題）は下記の通りである。

磯野真穂「死のエンハンスメントーコロナ禍を中心として」

田中大輔「COVID-19の発生に対する葬儀業の初動と展開」

加賀谷真梨「生を司り、死を司る人々ー池間島の高齢者が生きている時間」

丹羽朋子「喪明けに抗する展示ー東日本大震災「メモリアル」施設における「形見分け」の実践」

金セツピョル「死を通して生に向かうー喪興小屋の軌跡から」

田中大介「COVID-19の発生に対する葬儀業の初動と展開」

土佐桂子「SNSにおける「死」：クーデター・死にまつわる知らせ」

黒田末寿「アフェクトを拒否する世界からの反逆」

高木良子「死者の見直しー現在日本におけるデスマスク政策を事例に」

瓜生大輔「葬儀中継（者の立ち振る舞い）のデザインー撮影機器（カメラ）および、カメラを構える人を対象にー」

西井涼子「死の記憶と共同性ー森に入った人々（タイの民主化運動）」

以上。